

2021年03月25日 12面

文字サイズ 小 中 大 ブックマーク  印刷 

日本道路／南海トラフ地震想定したBCP訓練を実施



日本道路は11日、南海トラフ地震を想定したBCP（事業継続計画）訓練を実施した＝写真。本店と全支店の80人が参加した。訓練は新型コロナウイルスの感染対策として、災害対策本部の規模を縮小して実施した。発災直後の従業員の安否確認・事業所などの被害状況報告訓練、発災2日後を想定した被災支店の事業再開に向けた支援訓練の2部構成で行った。

新型コロナウイルスの感染対策として、災害対策本部の規模を縮小して実施した

南海トラフ地震では、被災地域が広域にわたると想定されるため、非被災地域からの迅速な支援が必要となる。訓練では従業員が発信した情報や各支店の対策本部が集約した情報を確実に全社で共有するため、従来のパソコンを使用したテレビ会議システムだけでなく、スマートフォン、タブレット端末などといったさまざまなデバイスを活用した情報共有訓練とした。

訓練後に講評した久松博三社長は「発災後、公的な支援が始まるまでの間の対応をいかに備え、行動していくのかを本社、支店が中心となり平時から従業員全員が準備・訓練しておくことが肝要」と指摘。訓練を契機に「いま一度全従業員それぞれが考えてほしい」と訴えた。

記事ID : 3202103251208

Copyright(C) 日刊建設工業新聞 記事の無断転用を禁じます